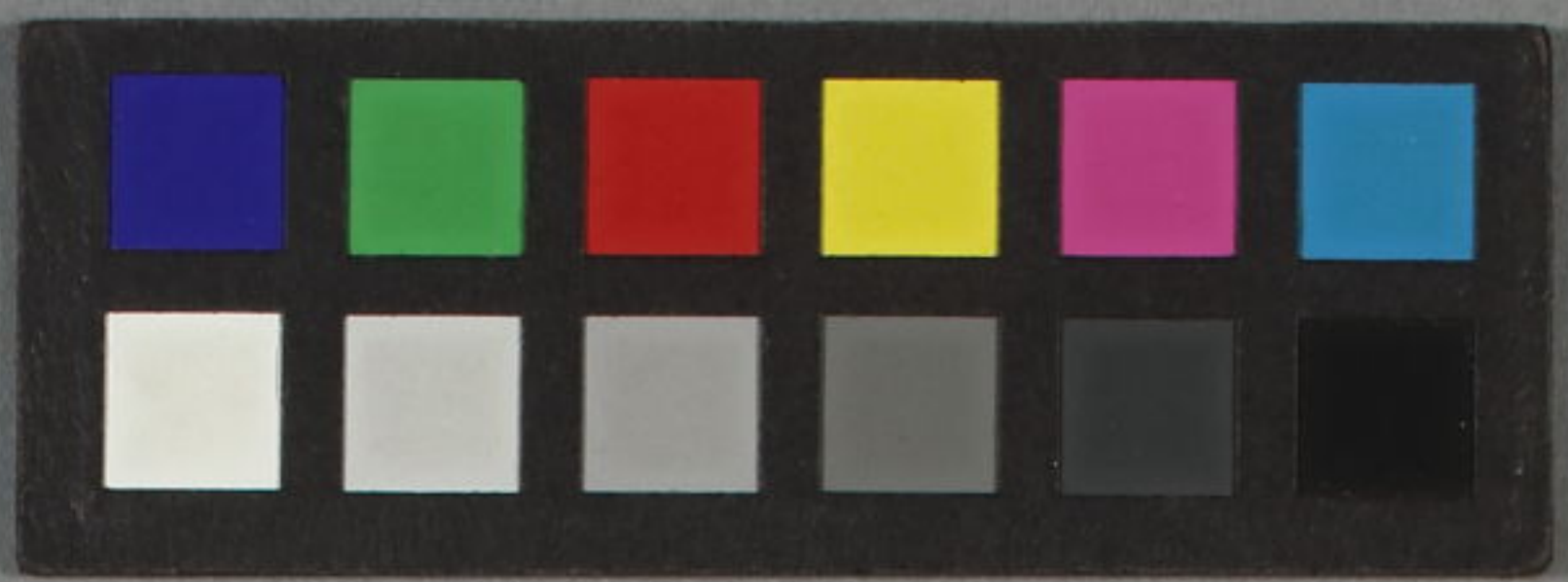


文化丁丑
 雜部
 槐陰拾葉

吉亨軒外史叙

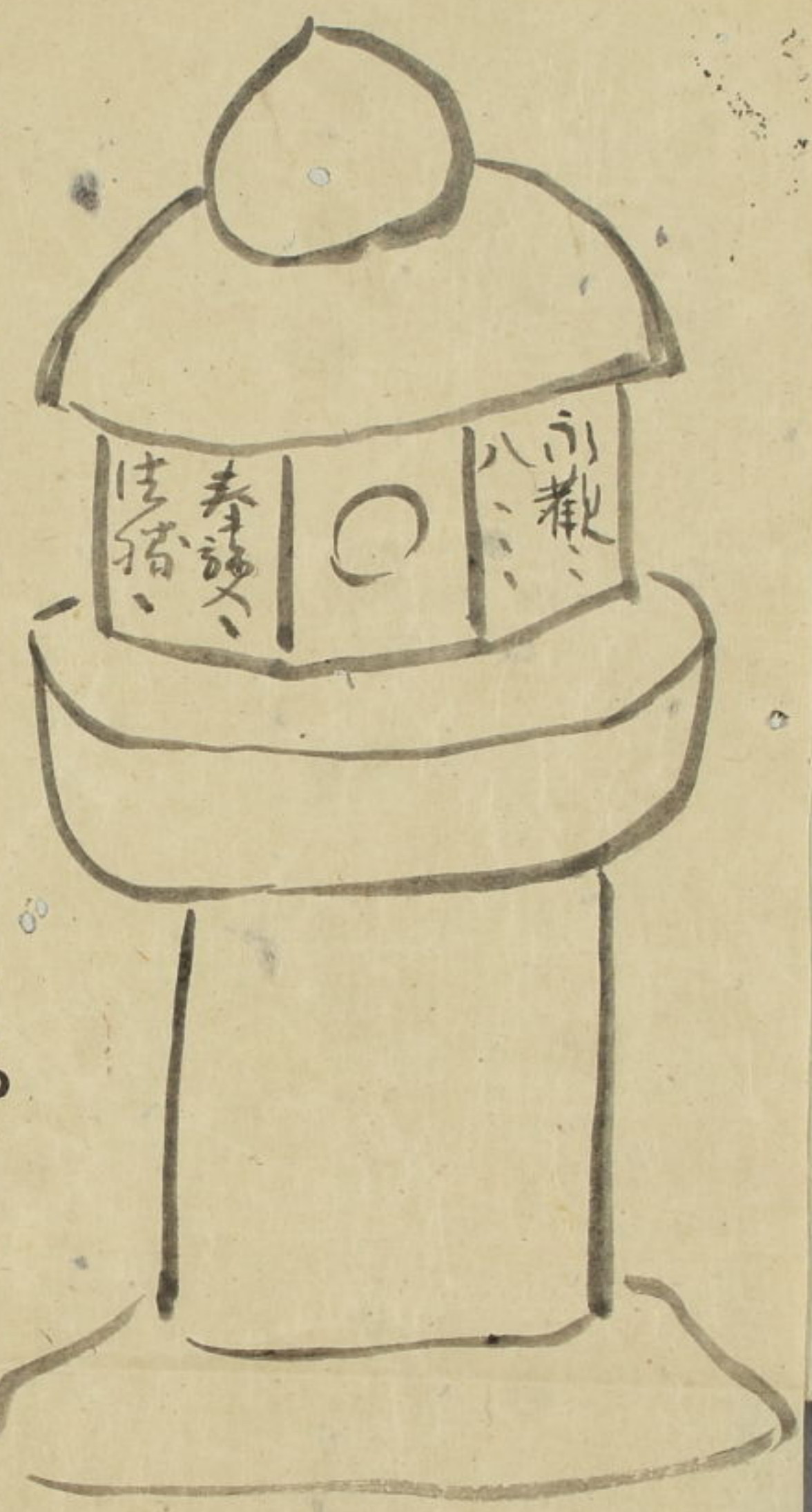
14
 2478
 204





14
2478
卷204

中島寺は所々塔ありて其の塔は地盤より高く立見ゆ



宗世懷舊 岸海翁

宗世懷舊
老翁むいしと云ふ

山泉秋文 岩倉

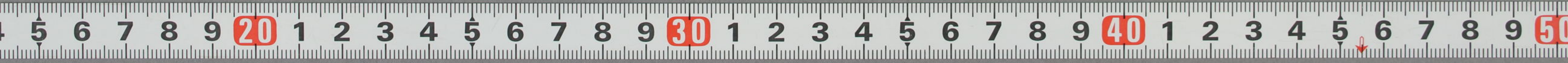
いまやういづくの山とたれし
こころは世の秋の夕陽

述懐 全

多神乃三より乃名也
いさよーいづくの山とたれし

鬼術玉柄増年筆
鶴舞瓊筵献壽杯

四海の内なる先り也



14
2478
卷204

宇世懷舊

岸海翁

古よりよびしもの何れも
古今く老むむしと云ふ

山泉秋文

岩翁

いまやういふもの山とたれは
こゝも海世の秋のみぞ

述懐

全

あ神乃三より乃名氏
いすう一はのそやまうふ

愚衛玉柄増年筆

鶴舞瓊筵献壽杯

四海の内皆為先也

天壽不貳脩身任天命

君子萬年宜其遐福

長生无極子孫十億

右今度花山院前田原、抄外

人刺日自違

十丹頂鶴

海燕巢書閣山鷄舞畫樓

筆湧江山氣文驕雲雨神

海内看黃金立息氣

武内神符走馬へ詔し倭成倍と後。その後、しつりの筆をくししつらき

何れ、清の詞のよきと此く而んじ

そしちあらんやんやんやんやん

そしちあらんやんやんやんやん

かくかんやんやんやんやん

○或道山の西の根の

世の此人成る者禁す

根名の園を

こつ子、やんやんやんやん

○松石磊々落々、實三大夫夫ノ次女也

まうめ九何のぬめりの、花を
初めし下かむとのしけくはし海
のすけぬらうとくあをのまを
あつて下かむ何のしあつた
しつてし又あをの思のる
思のあをえんてしあ

七のよとのすかむしめちるは
うらなはしあつたしあつた
るあやみあつたしあつた橋は
しつてしあつたしあつた
るあやみあつたしあつた
いふしあつたしあつた

みしあつたしあつた
あつたしあつた
あつたしあつた
あつたしあつた

○あつたしあつた
あつたしあつた

都心

あつたしあつた
あつたしあつた

あつたしあつた
あつたしあつた
あつたしあつた

隆々毎磨里宇鎔成字々
全洗心唯在沐硯海恩波深

あつらひ 筆下 吟句
あつらひ 筆下 吟句
全洗心 唯在 沐硯 海恩 波深

秋 保賦

續

秋の半ちやあけぬ衣七ハ
中野にせよの奥もなぐさ

出居方 傳樂

月夜のあけぬ衣七ハ
人もせよぬやふ新河院

秋 保賦

一丁らゝ星隠しん

花岸人も秋のあけぬ衣

よのあけぬ衣

照りよあけぬ衣七ハ

あけぬ衣七ハ

あけぬ衣七ハ

あけぬ衣七ハ

あけぬ衣七ハ

あけぬ衣七ハ

あけぬ衣七ハ

あけぬ衣七ハ

あけぬ衣七ハ

うはめ名のこのはとよ入る月ハ

先らとちりてすんぼんよ

葉の色けよちうゆれあまら

ゆみそ花の咲りつるも

時雨

ゆき白ゆきあめしほらら

ちりちりゆきあめしほらら

ゆきあめしほららゆきあめしほらら

ゆきあめしほららゆきあめしほらら

。あな花

この世もあな花のあな花のあな花

あな花のあな花のあな花のあな花

あな花のあな花のあな花のあな花

あな花のあな花のあな花のあな花

あな花のあな花のあな花のあな花
あな花のあな花のあな花のあな花
あな花のあな花のあな花のあな花
あな花のあな花のあな花のあな花

あな花のあな花のあな花のあな花

あな花のあな花のあな花のあな花

あな花のあな花のあな花のあな花

あな花のあな花のあな花のあな花

あな花のあな花のあな花のあな花

あな花のあな花のあな花のあな花

あな花のあな花のあな花のあな花

あな花のあな花のあな花のあな花

あな花のあな花のあな花のあな花

あな花のあな花のあな花のあな花

あな花のあな花のあな花のあな花

をきくよりのわたりわたりの
色

何れいなりしとねられし
ゆらぬよりのゆらぬゆらぬ

水田山 藤津

高野や夏としよとあや
秋もわらわらかき入る梅影

幸山

風やさる水も秋の礎をたぎ
るよりの岸も夏乃外なる

高野山近在

高野山 土人三浦のニカムロトカミ昔
高野山 高野山 高野山

高野山 高野山 高野山

高野山 高野山 高野山
高野山 高野山 高野山

高野山 高野山 高野山
高野山 高野山 高野山

高野山 高野山 高野山
高野山 高野山 高野山

高野山 高野山 高野山
高野山 高野山 高野山

高野山 高野山 高野山

高野山 高野山 高野山

高野山 高野山 高野山

温古 乙亥之夏

曉起先拜建方

大福畢雜煮始

古乙亥大小偏大

慈眼大師廟 江島坂平道賀院邊有

慈眼大師名天海南光坊ト稱ス

俗性中原氏大外記職志ノ見ニテ

殿山中奥閑山ナリ

右山列名跡志文ナリ

一土九国本朝前集

右書有何ノ作何ノ書ノト云々

一清原重光 吉田社若宮権現

唐石康永ノ頃 下後権守

在園方唐ノ世ニ在リ

一康下

神井次 中傳云 下ノ世ニ在リ

六条下ノ書者ノ世ニ在リ古ノ康ノ

皇朝ノ世ニ在リ

余ノ世ニ在リ

制法ノ世ニ在リ

一甲子ノ世ニ在リ

如也ノ世ニ在リ

夫也ノ世ニ在リ

一坊也ノ世ニ在リ

江戶ノ世ニ在リ

乙亥年
限銀三ヶ匁錦箋

今年蘭入正引船

山崎近邊神泉苑

萬氏千手聯万年

婚姻了瑞金銀錢

入台陸柿有顯前言志

正二位安貞陸

あり起るよき紙をむしり

ありの紙を

名も多うかひあやう

ふも多うか

○やいしはれはるはる紙して人

かきねるはらわす

○鬼の子しあつねとの花

少巻

ちあわのいざのさしん

○中場山崎 花名あきつね

子 畑森々め村

○昇餅を

あまのりやう海すらすら

あまのりやう海すらすら

○かきねるはらわす

かきねるはらわす

かきねるはらわす

しずむるのなほさかづき人走はのほめ
きしきぬつ代とかう少後人

。あつたよき書きの所は拾ふありてハ
読の教と秘とやうちうく
すくさうからつ子とハ捨つこの

。たせんの柳のよ細川世母の傍
む傍列々舟の魚はくなく

あつこのころのそと星舟はつ
すくさうからつ子とハ捨つこの

。うのしづむるのなほさかづき人走はのほめ
きしきぬつ代とかう少後人

とくさうからつ子とハ捨つこの
すくさうからつ子とハ捨つこの

。しづむるのなほさかづき人走はのほめ
きしきぬつ代とかう少後人

とくさうからつ子とハ捨つこの
すくさうからつ子とハ捨つこの

。早春歌
ゆれ

春くれハ糸の色もよす
白くもやうにこれの梅うん

。そのころも雲沖に梅の茶
あつたよき書きの所は拾ふありてハ

。このころも雲沖に梅の茶
あつたよき書きの所は拾ふありてハ

。あつたよき書きの所は拾ふありてハ
あつたよき書きの所は拾ふありてハ

。あつたよき書きの所は拾ふありてハ
あつたよき書きの所は拾ふありてハ

○ ちかーく人々をいふ

〃 ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

〃 ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

〃 ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

〃 ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

〃 ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

〃 ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

○ ちかーく人々をいふ

。馬少杖

又いづる物もさく此葉あり乃神
あしきいづる物もさく此葉あり乃神
。奉命神さ

かくまてにふきく丸茶丸あきて
あしきいづる物もさく此葉あり乃神
。奉命神さ

物うら光くみふけし葉丸のあは
あしきいづる物もさく此葉あり乃神

。ちりしよきれい海もせきけすり
たから神方祀かしやえん

みさくせハみさく此浪とあはし
たのちハ風を吹きさるる

。ちりしよきれい海もせきけすり
たから神方祀かしやえん

。ちりしよきれい海もせきけすり
たから神方祀かしやえん

。ちりしよきれい海もせきけすり
たから神方祀かしやえん

。ちりしよきれい海もせきけすり
たから神方祀かしやえん

忠

。ちりしよきれい海もせきけすり
たから神方祀かしやえん

。ちりしよきれい海もせきけすり
たから神方祀かしやえん

。ちりしよきれい海もせきけすり
たから神方祀かしやえん

。ちりしよきれい海もせきけすり
たから神方祀かしやえん

。ちりしよきれい海もせきけすり
たから神方祀かしやえん

おのの山吹

あまのそとをくまのまは衣
そと吹や又山吹のま

恋懐

うや交にいふねる茶の味ハ
まの物り里れれやねん

。夫さうれ都のまのう州おそい
めうううましむあー大逆

恋

まのううておのあふあふあ
あまのうけいけいあをん

涙のう中

柄のまもううまハあふあ
あまのうけいけいあをん

恋

おののれいあまのまのあ
あまのうけいけいあをん

。あまのあふああああ
あまのうけいけいあをん

。うらまのあひるむあま
あまのうけいけいあをん

。あまのあふああああ
あまのうけいけいあをん

恨

あまのあふああああ
あまのうけいけいあをん

かきくはたさるれり花鳥の
なまきみはにかさるれぬる

別意

かきくはたさるれり花鳥の
なまきみはにかさるれぬる

浪華過長物長物長物

あつた風はうらさるる
かきくはたさるれり花鳥の

述懐

あつた風はうらさるる
かきくはたさるれり花鳥の

あつた風はうらさるる
かきくはたさるれり花鳥の

あつた風はうらさるる
かきくはたさるれり花鳥の

あつた風はうらさるる
かきくはたさるれり花鳥の

あつた風はうらさるる
かきくはたさるれり花鳥の

あつた風はうらさるる
かきくはたさるれり花鳥の

恋

あつた風はうらさるる
かきくはたさるれり花鳥の

あつた風はうらさるる
かきくはたさるれり花鳥の

つとよとあてふことハ誰に對して
たうきくこゝろのこゝろをうらむ

端山秋

御のツナ物もや御前の清し
こゝろにわがこゝろにわがこゝろ

古里お里

物さきしりかやうしんもはは
声もあはれはらやますま

月前迷懐

泳しはらたわもくもあはら
ははよしこゝろにわがこゝろ

おこしあはれこゝろにわがこゝろ
そこにわがこゝろにわがこゝろ

。そよ中ねるもあはららるる

あやるす結もくすくす

。いさしこゝろにわがこゝろ

わしこゝろにわがこゝろ

。露もすよいさよせまのほろ

あやるす結もくすくす

。初秋

そよ中ねるもあはららるる

あやるす結もくすくす

。いさしこゝろにわがこゝろ

わしこゝろにわがこゝろ

。露もすよいさよせまのほろ

あやるす結もくすくす

三つてつはほととぬく西よるる

之月遊多凱

昇くはる霞より多凱多凱の
宗とあるはた月や宿し

形跡よりなる

わいてほりて風はきり
流多あせあをたしそんぬ

。たましとちびくし風吹きて
あはれぬぬわたとはしぬし

拜能因位師持巻

あつまるもこしけちあまし
あましとてのいもたれ

迷懐

是れもあましあましあましの
無き風のあましあまし

。老いきたるは川の波津とハ
そをそそそ岸の松。子

。江はる人へむしれはとん
きあましあましあまし

山帯

曉りともあしあましあまし
そはあましあましのあまし

。衣裳はすあ

袂 フモテ 裡 ウラ 褌 セナイ 襟 エリ 内襟 シタガイ 社 ラカビ 衿 コロモノタビ

袖 ソデ 袂 タモト 裙衣 モスソ 帯 ヲビ 紳 フナヒ 袴 ヒツカモノ

紐子 ヒモ 宗細 ツナシ 手巾 テハカヒ 汗巾 アセナガヒ 紡 カウキニ 襷 ヒツタ

手帕 フナサ 袴 タスヒ 手 テ 袍 カサキ 缺 ワキアテ 振 カッキ 蒙衣 カッキ

浴衣 袴 袴 汗衫 襦

。 絲 類

絹 類 縞 綵 縞 綵 縞 綵 縞 綵

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

一 初 台 作 倣 元 創 哉 基
奮 始 孟 宗 乍 本 序 權

印 華 布 西 降 布

兜 羅 海 七 絲 八 派 柳 條 綉

紗 羅 縠 縠 綾 光 綾 花 綾

縞 袂 供 錦 織 金 綺 縞 縞 縞

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

縞 類 縞 類 縞 類 縞 類 縞 類

新 昉 翔 東 游 牟 甫 祖 祝
齋 載 造 長 順 頤 頭 魁 先

凍 址 鼻

遍 周 普 循 徇 彌 巡 每 員
物 凋 均 直 博 洽 浸 浹 巾 徧

麗 旦 孺 宣 伺 倬 僚 亮 光
同 劬 卓 敘 士 坦 壇 齋 齋
安 宣 案 案 審 寢 曉 暉 暉
景 侃 鞞 鞞 徵 世 徵 衛 徹 徹
悞 悞 悞 悞 悞 悞 悞 悞 悞

荷葉

五甲ツノイロイロ年々定規の利休板
ナセロ

多入古儀の石形 多儀成戸 多儀定三作
水指の字二龍角 蓋の字

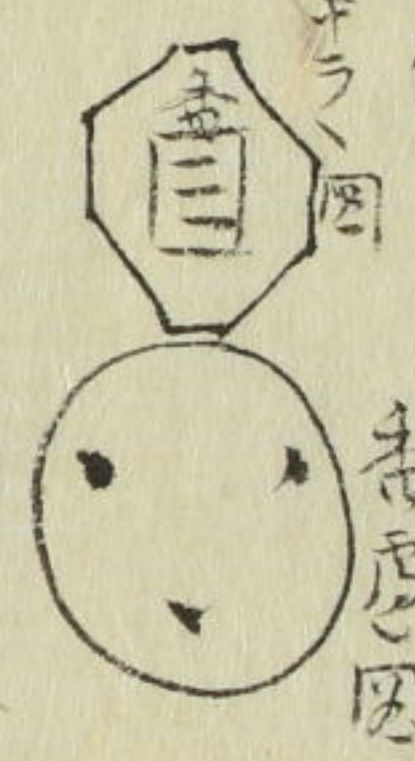
ね 帯合 袴下 柳の字 代目 屏風
多入 屏物 多儀 目 水さし 御へ 蓋の字

多入の字

打互にあのこはつけてあるもの

多入の中にあるもの

三ツケ物



柳物 右左

葉の字 葉の字 葉の字

はさかたの字 葉の字

はさかたの字 葉の字

葉の字 葉の字 葉の字

一 葉の字 葉の字 葉の字

二 葉の字 葉の字 葉の字

三 葉の字 葉の字 葉の字

四 葉の字 葉の字 葉の字

五 葉の字 葉の字 葉の字

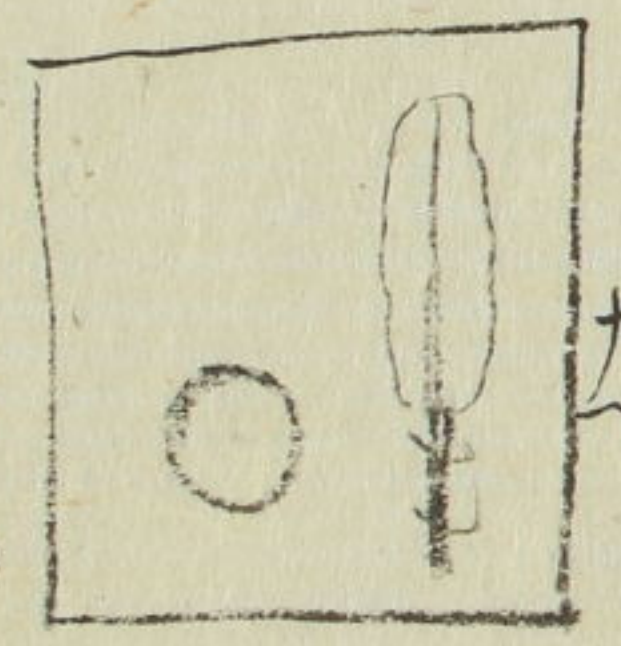
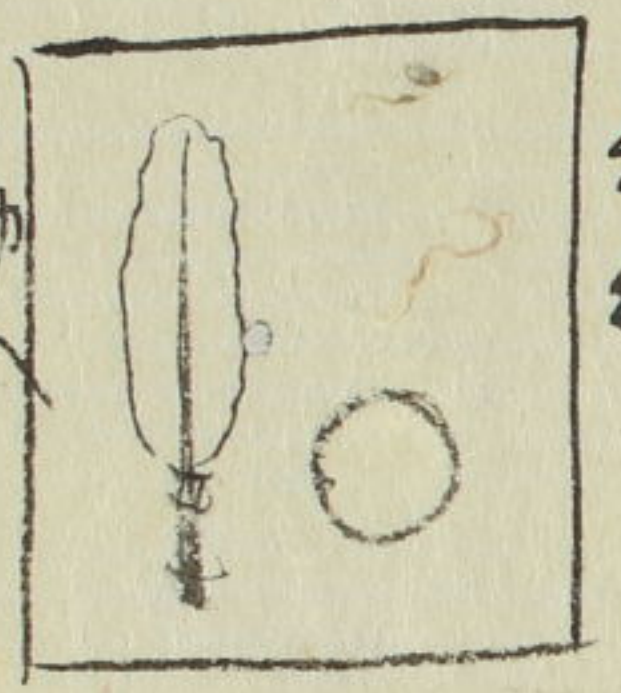
六 葉の字 葉の字 葉の字

七 葉の字 葉の字 葉の字

八 葉の字 葉の字 葉の字

九 葉の字 葉の字 葉の字

十 葉の字 葉の字 葉の字



カゴの字 葉の字 葉の字

カゴの字 葉の字 葉の字

城守と語りし夜
はさきとて行かん
ちまきよの

かきこま
はさきらハ

詠樓上野おき

ゆきとておのふきとて春は物
うらみのりとのいふも
うらむれおのふきとて春は物
おのふきとて春は物
おのふきとて春は物

すけとておのふきのまき
おのふきのまきとて春は物
おのふきのまきとて春は物
おのふきのまきとて春は物

客道祝

玉河の客道祝
おのふきのまきとて春は物
おのふきのまきとて春は物

春ノ野ニ求食雉子ノ妻
乞ニ己カ在家ヲ人ニ知ツ

和歌ノ浦ニ沙満来ハ深ク
無芦邊ヲ差戸田鶴鳴渡ル

てふとハ

あまのこゝろのきこえて

少夜更く友とて
おのふきのまきとて春は物

立のふきのまきとて春は物
おのふきのまきとて春は物

十九日 大田村のりし

葉のしりし

はらぬをぬいし

はらぬをぬいし

一 村をまわつておぼえし

一 田舎のりし

一 田舎のりし

くわつて可申

一 田舎のりし

一 田舎のりし

一 田舎のりし

一 田舎のりし

一 田舎のりし

一 田舎のりし

一 田舎のりし

一 田舎のりし

一 田舎のりし

一 田舎のりし

木七

刀掛 土のりし

カケ物 土のりし

土のりし

土のりし

一 田舎のりし

一 田舎のりし

一 田舎のりし

一 田舎のりし

兵部あり

即

一 田舎のりし

一 田舎のりし

一 田舎のりし

夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色

夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色

辛酉仲

夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色

秋野

夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色
夕暮城邊色

春日郊行
一東

春遊到盡烟
中浪中

芳草青
舞晚風
舞舞
舞舞
舞舞
舞舞
舞舞
舞舞
舞舞
舞舞

同村音

芳草青
舞晚風
舞舞
舞舞
舞舞
舞舞
舞舞
舞舞
舞舞
舞舞

欲原
舞舞
舞舞
舞舞
舞舞
舞舞
舞舞
舞舞
舞舞
舞舞

夜雪
西中
訪友

夜雪紛
轉滿衣
留驢拂
袖叩
紫麻袁
安高臥
寒窓裡
置酒清
醉未歸

風雪
訪友
西中
夜雪
轉滿衣
留驢拂
袖叩
紫麻袁
安高臥
寒窓裡
置酒清
醉未歸

あつたる色をいふを梅は冬 題春
あつたる色をいふを梅は冬 題春

十五夜 月あつたる色をいふを梅は冬 題春
月あつたる色をいふを梅は冬 題春

卒のあつた 卒のあつた 卒のあつた
卒のあつた 卒のあつた 卒のあつた

寄鶴屋 老之七十五のあつた 卒のあつた
老之七十五のあつた 卒のあつた

風物けい 風物けい 風物けい
風物けい 風物けい 風物けい

古き書 古き書 古き書
古き書 古き書 古き書

春曉月 春曉月 春曉月
春曉月 春曉月 春曉月

押鶴愛亀僊 身降 神、靈 清貧 度阿 度阿 度阿

右題壽老人因 程修

東照宮天下の統一統支干あり

相續太平 太平の相續 太平の相續
相續太平 太平の相續 太平の相續

印 印 印
印 印 印

字保千
字保千
字保千

以六兩為一斤。一屯綿二斤。

二十四錢之合為兩

權衡二十四錢為兩 謂以粗黍中者百黍重之為錢二十四錢為兩也

優柔厭飲 物ノムクリトマシ

好子ハ如シ人游ハ千里之外ニ是ハ世言シ奔天地
ヲ知ラズ子者ト云行モ至ラス只見カシテ
才ニスルハ不学子ト云ハ如シ子者ト云人ノ為
物ハ且子向カ我カニスルヲ存意ニ抑カ
ルカ孔子志カ万物ト通カスリヤ

男女婚姻賦 以情緒相感也 後姓身為韻 朝綱

至剛者男取柔者女彼情感之交通

離父母難禁禦始使媒介巧盡
古端之妙繼以佞歌彌亂心機之緒
原夫尋取難見聞声味相思切
而含笑語密而斷腸琪樹在庭對
貞松以契茂嘉草植室指金蘭
以期香徒觀夫具體微和其意漸感
婀娜以居類野小町之採閑雅而語抽在中
將之瞻思急發興也方生親堂而
盡美勢巍而傾城深紅袖於百和
猶耽芬馥携素手於一琴已迷心精
矧夫女貴其貞潔嫁成其婚姻
結千年之契態快一夜之文親晚露
濕時潤楚之服夜月幽處頭輝
身占魏柳於付點燕脂於唇昔羅
推維慙骨肉之愛今背紗燈俄照胡
越之人亦其初親其後解單袴之
怨更不知結白雲之膚還忘厭醜宣

同仇之相好是終身之匹偶。則知形美者其愛深。感通者其身好。不啻夫妻之配合。運頼子孫之庇蔭。入門有濕。淫水出以汚禱。窺戶無入吟聲。高而不狹。是知媚感難免。誰有聖賢。若陰陽之相感。知造化之自然。心屈閉卧若忘歸於桃源之浦。精滿流眄似覺。夢於華胥之天。意惆悵而無止思。耿介而不眠。俾夫媚婦與前子其不聞之相憐。

右本朝文粹卷之一婚姻部文

得方

甲巳ノ年ハ寅申ノ向 丙戌辛癸ノ年ハ巳ノ向
庚ノ年ハ申酉ノ向 壬丁ノ年ハ亥子ノ向ニ
鎮座ノ多クハ此ノ向方ト云

酒

或説酒ハマシク多ク用美ノ邦家也。又三升ト訓テハ酒造。邦氣人ノは膚ト云々。又守ト云々。

御作法

御作法ハ法護國家土穀量鏡ノ所ナリ。官中ニ行ハズ大元秘法ナリ。

醴作法

醴飯 糯米四合

麴 五合

酒 三升

右麴ヲ酒ニヨクハケカヤワラカナル時醴飯ヲ入テ
ヨクカキマゼ一夜ヲキテマイラスル。

右即厨子所預定奉家傳可秘也。

久我家園固園 高橋宗直洞進

白餅一輪ドリ徑五寸

菓子サテハハ

夕子花一枚ニツキリ若シ

ナキトキハ結合

テ用ユ

塩 三合二

大根一筋、恰好三

年逢下大根、奉書、四ツニ折テ結之、結先縮シ

如圖



御前



國語宋辭叙録云

魏志王討劉備不得進欲去之

發令云鶏助○揚脩云棄之可惜啖

之無所得王遂還

閣和字聽コガツキ日コガツキ小五月會日吉奉シ

小御所小御所誤歟增阿増阿彌由由皇皇同同宗宗元元

西洞院獄門内昔ノ獄舎

本目本自ノ誤誤誤坂坂本本處處山山ノノノノ

地子氏子ノノノノノ回祿炎上ノノノ

料足錢ノノノ駒象駒象同同ノノ類類ノノ

葵葵峯峯本本田田ノノ子子也也

廣永世二年二合所申文也典文五頭安立卷ノノカ

○柳下龍衣

冬、裏青、表白

又一説、裏表青

又、柳下章ト兩説用例ノノカ

○六典、礼部

園丘謂天地ノ方丘同上裕吉子三年一度

臨軒天子謂出所ノ千秋節唐玄宗皇帝誕生日ノ

兵部

左右武衛曰能楽○驢驛馬類耳長ヤツツムムノノ

○端冕東帝ニテイル

攘攘シリカラゲル

○日本

右ヤマトノ訓ハモト大和三卿ホドノトコロナリ
ケルガ段ニ倭ト一卿ノ名トナリ又後二帝王ノ
都セルトコロサシテヤマトニ云テヤマトノ訓ナクカリ
ニ廣クイ、タキ心ニテ日本ノ字有之

○葉鷹

下敷之節ハハゴモト読
食物用元時入ゴモト読

○尻塞

イタ矢ノ跡カラホソノ矢ノ
跡ヲケス

江ノ才ニ六裏
壇間 石灰壇

○結句

アトノコトヲ云必竟
ツミリノコトヲ云
如法經幡 法經書

○切石

敷石ノ一ナリ
榎樽ト同

○次目

次ニト云ヤウナリ

○二人相居之

着床子明床ノ一
按此時分ニ不有職ノ一ニハヤウノ一

○被越大将之上結句大臣

ニト云ヤウ

○巨直鳥帽子

○着敷重座

無板敷ノ一

○深重

ハコキ重ノ一又ハ深重ト有之ニハ
深重ノ誤次深重ハ深色ノ一廣ク云

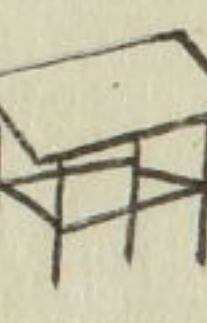
○穴大鼻之草御免

不首鼻ノ一今ノ
シクビリナリ又今ノ

○判署

各書ノ一

○倚子足



○牙象足



○榻足



草足ナリ先ハ
牡丹

○サキ足



○御厨子所預

今按小預依断絶永正三年六月廿六日以供御所
預大隅守藤原兼清補之是今大隅天文比以預

紀宗国兼帯小湊 今高橋

。阿方くら

今世小湊、カ小阿方くらとふ名行り
欠銀御式大掌合井ぬの申小阿方
カ子世柄しふる、けりけ名より出り
カ子

。朝臣ノ

一姓ノ朝臣ハ阿曾美ニテ アセオミ 吾兄臣ト云々

。カ多志志

躬抱子小阿方とむれ、の四三を以て
いふ多志志とてかみとむむむむむ
あまのり

。玉海ト玉葉ト同存

或云玉海三本玉葉抄出歟云々

。庶獄。左降中ノ節目。牙ノ横出

。又井川り、はるの秋、あし彦彦

あし彦彦、あし彦彦のあし彦彦

。サ米乃多や、お女とけり、お

飯成り

。國ミ、は子供乃多、や、ま白田

神傳子備ま、國ミ、は子供乃多、や、ま白田

。浦崎、うのま、けり、お

あし彦彦、あし彦彦のあし彦彦

。日向国高千穂嶺三田井

日向八十七月廿四日、上土田家

高千穂嶺、高千穂嶺、高千穂嶺

高千穂嶺、高千穂嶺、高千穂嶺

高千穂嶺、高千穂嶺、高千穂嶺

高千穂嶺、高千穂嶺、高千穂嶺

高千穂嶺、高千穂嶺、高千穂嶺

。國邊、弄人、目、あ、樹、え、と、あ、り、く

あ、り、く、あ、り、く、あ、り、く

あ、り、く、あ、り、く、あ、り、く

あ、り、く、あ、り、く、あ、り、く



ちんぽう。おしん入世りしん

子あつめはもくもくはくはくはく

おのこはあつめはくはくはく

あつめはくはくはくはく

。或人するこのあつめはくはくはく

あつめはくはくはくはく

あつめはくはくはくはく

あつめはくはくはくはく

あつめはくはくはくはく

